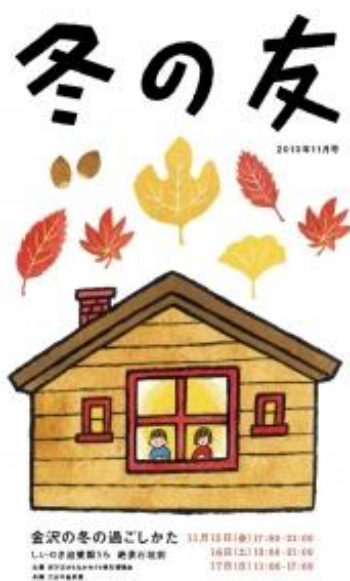


2006年にザ・観光地ではない場所を紹介する金沢本『乙女の金沢』という本を出したことをきっかけに、石川県の工芸品や雑貨、食品などをあつめて販売する「乙女の金沢展」を、東京では毎年、その他各地で開催しています。



その後、2011年からは、「春ららら市」と題したクラフトフェアのようなイベントを開催。今年は、80以上の作家、60以上の飲食店の出店で開催予定です。秋には「冬の友」や「こたつの誘惑」などを何度か開催しました。



また、昨年からは「こども工芸修行 弟子求む！」という、こども向けの工芸体験イベントを、夏休みに伝統産業工芸館で開催。多くのこどもたちが夢中になって制作していました。

KODOMO KOGEI

こども工芸修行 弟子求む!

2016年 7/22 から 8/30 まで

石川県立伝統産業工芸館 9:00-17:00

石川県立伝統産業工芸館
 富山県富山県庁南側1階(富山県)富山 261-2000
 連絡先: 9-36-27 261-2611(TEL)
 休館日: 第3水曜日(7/29)・第3日曜日(8/28)

伝統工芸士による実演デモンストラーション

7/22 7:00-11:00 陶器作り
7/23 7:00-11:00 漆工・漆器作り
7/24 8:00-11:00 二色刺繍・漆器作り
7/25 8:00-11:00 和紙工・和紙作り
7/26 3:00-6:00 漆器作り・漆器作り
7/27 14:00-17:00 漆器作り・漆器作り
7/28 21:00-24:00 漆器作り・漆器作り
7/29 21:00-24:00 漆器作り・漆器作り

木

7/22 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/23 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/24 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/25 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/26 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/27 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/28 7:00-11:00 木製おもちゃ作り
7/29 7:00-11:00 木製おもちゃ作り

土

7/22 7:00-11:00 陶器作り
7/23 7:00-11:00 陶器作り
7/24 7:00-11:00 陶器作り
7/25 7:00-11:00 陶器作り
7/26 7:00-11:00 陶器作り
7/27 7:00-11:00 陶器作り
7/28 7:00-11:00 陶器作り
7/29 7:00-11:00 陶器作り

紙

7/22 7:00-11:00 和紙作り
7/23 7:00-11:00 和紙作り
7/24 7:00-11:00 和紙作り
7/25 7:00-11:00 和紙作り
7/26 7:00-11:00 和紙作り
7/27 7:00-11:00 和紙作り
7/28 7:00-11:00 和紙作り
7/29 7:00-11:00 和紙作り

糸

7/22 7:00-11:00 刺繍作り
7/23 7:00-11:00 刺繍作り
7/24 7:00-11:00 刺繍作り
7/25 7:00-11:00 刺繍作り
7/26 7:00-11:00 刺繍作り
7/27 7:00-11:00 刺繍作り
7/28 7:00-11:00 刺繍作り
7/29 7:00-11:00 刺繍作り

布

7/22 7:00-11:00 和紙工
7/23 7:00-11:00 和紙工
7/24 7:00-11:00 和紙工
7/25 7:00-11:00 和紙工
7/26 7:00-11:00 和紙工
7/27 7:00-11:00 和紙工
7/28 7:00-11:00 和紙工
7/29 7:00-11:00 和紙工

これらのイベントでは、金沢市や石川県などの助成金を利用し、なんとか開催できております。こんな市は他にはないだろうと感謝しております。ただ、わたし自身はさまざまな作家さんらに出店や体験をお願いする立場ですので、助成金などの予算がないと開催がむずかしいものがほとんどです。これまで、全国各地から開催の依頼は来ますが、助成金等を利用できない場合は、ほとんどお断りしています。

工芸作家の展示会等に対して出る助成が多いのですが、個人の出店は売り上げさえ見込めれば経費を回収できますが、多くの作家や商店の作品を持っていく場合には、経費の回収が困難です。

- つまり、コーディネートする個人への助成があれば、よりよいかたちで金沢の工芸を県外や県内に発信できるのではないのでしょうか。（物産展とは一線を画したかたちで）。
- また、こども向けのイベントや、学校での工芸の利用などは、今後欠かせないことかと思えます。工芸に結びつきの強い食の教育もしかりです。

金沢には多くの作家さんが住んでいますが、多くは、金沢美大や卯辰山工芸工房への入学入所をきっかけに移住しています。美術館などの文化施設があり、山や川、海などの自然も身近にあるこの街が制作に向いていることもあるでしょう。最近、30-40代の作家さんらが、何人も材木町に引っ越しています。人々の小さな営みが残る町や建築は、作家の美意識に合うようなのだと思います。

一方、金沢の街じたいには、都市部でよく見られるありきたりの商業施設が増え、まちなかへの居住を推進すると言いながら、中心地の小学校は合併に合併を重ねています。小学校が近くにない町に人は移住するのでしょうか。また、郊外へのインフラ整備が、将来の金沢の財政負担になるのではないかということも危惧しています。

- 小学校を減らすことはその土地の歴史や文化を失うことでもあります。小学校を減らすのではなく、まちなかに家を作りやすいような、居住者を増やすような条例を作るべきではないのでしょうか。

まちなかにあたりまえのように工芸作家が暮らし、人々の小さな営みが保たれることが金沢の魅力を増すとおもいます。

金沢の町の魅力が減れば、工芸作家の居住も、観光客も、減ることが予想されます。

●真鶴には「美の基準」というまちづくり条例があり、商業施設ではなく、美しい町並みを残すためのコードがあります。金沢もそろそろ、そのような志を持たねば、あっというまに、どこにでもあるつまらない都市になってしまうのではないのでしょうか。ソフト面は自らの努力である程度質を上げられますが、ハード面は個人の力では簡単には変えられません。

● わたしが普段おつきあいしている作家さんらは、経済や効率優先ではなく、自らの美意識や志があって制作している方ばかりです。

そういう作家たちも、伝統工芸や伝統芸能の方やアーティストも、マイノリティかもしれませんが、工芸に限らず、マイノリティこそが、きもちよく生きられる町であることが、金沢の文化の質をも上げていくとおもいます。

そのような、そこに住む人が、自分たちのまちの文化を誇れるまちにしたいです。

思いつくままに書きましたので、とりとめもなく、失礼いたしました。

本日は、出席できず、たいへん申し訳ございませんでした。

岩本歩弓

ごミュ印帖

